

第34回研修会報告

KSCD 事務局

京滋コンクリート診断士会では、第34回研修会を以下のとおり開催いたしました。
当日は大勢のご出席をいただき、盛況裏に終了できましたことを感謝申し上げます。

1. 日時 令和6年10月25日(金) 14:25~16:45
2. テーマ 「学びの秋！出前講座やら…世界遺産やら…」
3. 場所 京都経済センター 3F 3-F会議室
4. 参加者数 42名
5. プログラム

①「道路法における定期点検要領の改定ポイント」

近畿地方整備局 近畿道路メンテナンスセンター 課長 藤村知広 様
同上 保全対策官 藤井義之 様

②「軍艦島の鉄筋コンクリート構造物」

立命館大学 建築都市デザイン学科 建築材料研究室 教授 福山智子 先生

【総括】 京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 教授 山本貴士 先生



▲ 福島会長の挨拶



▲ 研修会場の様子



▲ 近畿地方整備局 藤井義之氏の講演



▲ 立命館大学 福山智子教授の講演

▲ 近畿地方整備局 藤村知広氏の講演



▲ 京都大学大学院 山本貴士教授の総括

まさに、「天高く、馬肥ゆる秋」、空は澄み渡り過ごしやすい秋の京都で、多数の参加者とともに「学びの秋！」の時間を過ごしました。

平成24年12月の笹子トンネル天井板落下事故を契機にスタートした「近接目視、5年毎」を原則とした道路の定期点検は、3巡目にさしかかります。2巡目までの総括を踏まえて本年3月に改定された「定期点検要領」について、定期点検要領を含む道路メンテナンス行政の建付けと、要領の改定のポイントについて、学ばせていただきました。

また、福山先生のご講演では、福山先生の現在行っている電気インピーダンストモグラフィや、3Dプリンターを用いたコンクリート造の異方性評価に関する基礎的な研究成果をご紹介いただいたのちに、世界遺産「軍艦島」のRC構造物についてご紹介いただきました。軍艦島のご紹介では、現在は立ち入ることのできないエリアの貴重な写真を多数提示いただき、主に2011年と2023年の調査時の写真を比較しながら、RC構造物の劣化の進展状況をご解説いただき、大正から昭和の多様な時期に建設されたRC構造物が、厳しい塩害環境下、厳しい風雨環境下で、劣化していく様子をダイナミックに感じることができました。

最後に、山本先生の総括をお聞きし、軍艦島のRC構造物をみていると、社会インフラが国力をよく反映していることを感じ、塩野七海先生のご著書「ローマ人の物語」に描かれたローマの繁栄・衰退を引き合いに、いかに社会インフラの維持が社会の発展・維持に重要であるかを改めて考え、コンクリート診断士が社会で果たしていく役割に思いを馳せ、研修会を終えました。

講演いただいた先生方、誠にありがとうございました。